

建築・空間分野 | モデルハウス・ショールーム 034
森でつながる家 ナイスパワーホーム豊田プレミアム
 ナイス(株)



概要
 これからの家づくりで大切なことは、地域の森林資源を活用することで、自然や生態系、産業や文化と共存し、育てていくという資源循環型社会を実現することです。森でつながる家は、最先端のスマートハウスの設備を備えながらも、愛知県豊田市の木材を活用して木のぬくもりや太陽の光など自然の恵みを最大限生かし、自然や文化とのつながりを尊重した暮らしを提案する住宅です。豊田市の低炭素社会モデル地区「とよたエコフルタウン」で「矢作川流域材」を使用したモデルハウスが見学できます。

◆<http://www.7147.com/ptoyota/>
評価ポイント 豊田市の森を、暮らしの視点から循環させようという視点が読み取れる。多世代に渡って住まうための可変性やリブ&ワークを可能にする空間提案など、細部にわたる工夫が秀逸である。

建築・空間分野 | 学校 031
十津川村立十津川中学校
 十津川村



概要
 木材産地の特性を生かして、十津川産のヒノキやスギをふんだんに使用した、木の香り漂う2階建ての木造校舎です。内装仕上げや机、椅子などにも十津川産材を使い、優しく暖かみのある雰囲気をつくりだし、生徒たちがゆとりと静かにものごとを考えることができる空間づくりにこだわりました。新たな校舎に通う生徒たちが、単に勉学に励むだけでなくとどまらず、地元の木材に囲まれて学校生活を送ることで、自然の豊かさを感じ、これまで木材を育ててくれた先人への感謝の心を育んでほしい。

◆仕様: 学校施設、価格: 18億1,536万4,000円
http://www.masutani.co.jp/works/detail/shcool_totukawa.html
評価ポイント 木材産地ならではの、木をふんだんに活用した、自宅のような温もりのある校舎になっている。傷や落書きがないことから、子どもが愛着を持った場所であることが伺える。

建築・空間分野 | モデルハウス・ショールーム 035
いっぽんの木
 ヤマサハウス(株)



概要
 「木」そのものを建築材料として森から市街地へ動かすだけでなく、生産・流通・建築・居住・再生と携わる人々の思いと同時に財産として継承していけるものとした。そこには形が変われど、森の要素を組み込み再現する事が重要。将来にわたり、携わった人々の想い・心の癒し・木への愛着が感じられる様に空気が触れる家の中に未来へのシンボルツリーとして「いっぽんの木」をデザインした。

◆入手先: ヤマサハウス株式会社
<http://www.g-mark.org/award/describe/40271?token=sYExqt8Zip>
評価ポイント 地域で育った木をシンボルとして空間内に配置するというシンプルな手法だが、森や地域、交流といったメッセージ性が一体となって伝わってくる。

建築・空間分野 | 病院・福祉施設 032
木漏れ日ハウス
 シーラカンスケイアンドエイチ(株)



概要
 福井県でも山深いこの地域は、著しい高齢化に見舞われています。隣は60床の特別養護老人ホームで、地域の高齢社会の拠点です。こうした収容施設以外にも、在宅高齢者の健康を支える施設やサービスが必要となり、同社会福祉法人が地域社会への貢献を目的にこの施設を建設しました。中心の12m×12mの無柱の木の広間は、2つに区切れ、通常はデイサービスとして高齢者の健康維持を図るための活動を行う他、在宅介護をサポートします。要介護高齢者の収容ではなく、地域全体で在宅高齢者の健康維持や介護を担おうとする流れを促す施設です。

◆<http://www.hikarigroup.jp/komorebi/>
評価ポイント 柔らかな光を取り込む、広い無柱空間は居心地の良い憩いの場という印象を受ける。地域の交流、多世代利用を想定したフレキシブルな空間でもある。

建築・空間分野 | 戸建住宅 036
リリーフ・アシスト丹波オフィス／保月の家
 (株)吉住工務店、(株)エヌ・シー・エヌ、(株)リリーフ・アシスト



概要
 四季の豊かな日本では、季節や時の変化を感じながら生活することは当たり前のことであった。しかしながら、いつからか家は閉ざされた箱のようになってしまいそれを感じる機会を失ってしまった。ここでは都会から農ある暮らしを求めて移住されるクライアントのために、里山の田園風景が残るこの地で、かつての日本らしい豊かな住まいを再考することを試みた。大屋根の下、開放的な大空間、土間や縁側的な中間領域を構成。そこに広がる四季折々の風景と心地よい風。それらとの共生のあり方を表現した。

◆仕様: 併用住宅/木造2階建/延べ面積264.8㎡
<http://yoshizumi.co.jp/special2/index5.php>
評価ポイント 外観が美しく、印象的な住宅である。空間ごとに木材を使い分けながら、感性を刺激する落ち着いた空間にまとまっている。50棟の実績も評価できる。

建築・空間分野 | 公共施設 033
福島県国見町庁舎
 福島県 国見町、ジェイアール東日本建築設計事務所、田畑建築設計事務所、安藤・間、安藤組、佐久間工業



概要
 東日本大震災で大破した庁舎の新築計画である。町民が身近に接する公共建築なので、最も親しみのある木の架構に包まれた空間がよいと考えた。外装にも積極的に木材を使用し、内部の木架構を外部へ表出させる透明なファサードとし、広場の樹木や山の風景と庁舎の一体化を試みた。耐火建築物であるため、鉄骨の躯体(柱・梁)を県産材のカラマツ集成材により耐火被覆し、現しとした。地場産木材を使用し、町民が親しみをもって利用できる内装も実現し、地域産業が多く参画している。

◆仕様: 階数(地上3階、地下1階)、構造(地上S造、地下RC造)
www.town.kunimi.fukushima.jp/
評価ポイント 被災した庁舎の新築計画であり、木に包まれた外観が印象に残る。地域材を使用することで、地域への親しみと貢献を形にするとともに、広場を使った開かれた空間づくりも好感が持てる。

建築・空間分野 | 保育園・幼稚園 028
土合舎利保育園
 社会福祉法人 仁善会、(株)日比野設計+幼児の城、(株)シェルター



概要
 既存園舎はRC造で室内の温度差が大きく、建材も床シート張りで冷たさを感じる環境でした。本プロジェクトでは「風」をコンセプトにそれらを解決しています。園舎を木造平屋建てにして、かざぐるまのように部屋をレイアウトし緑豊かな中庭型プランとしています。内部は子どもが活動するエリアについて、構造材を露出させ床をフローリングとして木に包まれた保育環境としています。開閉可能なハイサイドライトを設け、風の流れや明るさをコントロールしています。トイレも風が舞うイメージのトイレブースと水はね部以外をフローリングとすることで温かみや清潔感をつくり出しています。

評価ポイント 木の特性を活かし、室内の温度差を低減して子どもの健康への配慮が見られる。木づかいを象徴するダイニングは、木を感じさせながら開放的で食事も楽しそうである。

建築・空間分野 | 保育園・幼稚園 029
吉井保育園
 tatta建築設計事務所、Atelier nid、(株)シェルター



概要
 「ツバメが巣を作りたくなるような保育園を。」をコンセプトに生まれた木造の園舎です。構造はすべて木で組み、床、壁、天井、外壁、窓と様々な木種を採用した自然な佇まいの建築を目指しました。中心的空間の遊戯室に木のアーチ構造を採用し子供の目にも印象深い造形です。遊戯室を中心に周囲に保育室等諸室を設け同線の明確化を計画しています。建物外周部には軒を出し軒裏の垂木をデザインに生かしています。開けた場所は雨、風、日射から子供達や建物を守ります。

◆仕様: 木造保育園、価格: 2億1,000万円、入手先: 株式会社シェルター(構造)
<http://tatta-a.com/work/>
評価ポイント 懐かしい田舎の家を大きくしたような印象で、子どもの記憶に残りそうな空間である。園庭の使い方も工夫があり、地域に開かれた交流の場としても機能している。

建築・空間分野 | 学校 030
横浜商科大学高等学校実習棟
 (株)竹中工務店、横浜商科大学高等学校



概要
 高等学校の図書・実習棟の建替え計画である。計画建物は高低差のあるキャンパスの中心に位置しており、多面的かつ立体的に外部に開いた多様な木の空間を創ることで、学校生活をさらに豊かにするとともに、木の温もりあふれる空間で生徒が人・知識・環境と「出会い」、生き活きと自発的に学ぶことができる校舎を目指した。学校建築では日本初となる耐火集成材「燃エンウッド®」(耐火建築物で使用可能な木造の柱梁)を採用し、神奈川県産材の杉・檜を活用したインテリアと合わせて建築主の想いでもある「木の温かみ溢れる快適な学習空間」を創出した。

評価ポイント 木の味わいを感じさせる空間で、学生の集中とリラックス効果、コミュニケーションの活性化を図る学習空間を目指している。開放的で長時間滞在しなくなる空間である。

建築・空間分野 | 店舗・商業施設 025
ATグループ本社 北館
 (株)竹中工務店、(株)ATグループ、齋藤木材工業(株)、(株)未永製作所



概要
 愛知トヨタ自動車の80周年事業 本社ショールーム。自動車産業はハイブリッドやFCV車などの技術がクローズアップされ、大きく変わろうとしている。建築において革新的技術で応える為、都心部で高い優位性を持つ耐火集成材「燃エンウッド®」を用いた「木のショールーム」をつくり、未来に発信する空間とした。木造梁が天井や壁の木質素材と一体となることで色とりどりの車の器として背景をつくる「ショーケース」は、天井面のうねりによる動きの可視化や移り変わる照明演出により、存在を際立たせ、街の「ランドマーク」となっている。

◆http://www.aichi-toyota.jp/shoplist/shop/?shop_id=44
評価ポイント 木材と自動車の組み合わせは、環境対応が進む自動車産業と世界観がマッチしており、心地良く快適な空間となっている。軒先を地域の人々の安らぎの場としている点も良い。

建築・空間分野 | 店舗・商業施設 026
two spiral
 ミズタニテツヒロ建築設計



概要
 牛革のバッグを製作販売するショップの店舗(サロン・アトリエ・ギャラリー)併用住宅である。革のバッグとの調和という視点で選んだ素材が同じ自然素材の木であった。また、木特有の力強さはミンなどの機器にも調和すると考えた。螺旋階段や作業カウンター、収納棚は木を「張る」ではなくブロック状に見立て「積む」のデザインとして、力強く存在している。木使用部面積のバランスを考え、大きな面積である天井は変則格子状に造作して控えめな主張となるよう繊細に扱った。

評価ポイント 上質で綺麗なインテリアは、感覚に訴えかける店舗空間を演出している。自然素材であるバッグを扱う店舗に、地域材がよく馴染んでいる。

建築・空間分野 | 保育園・幼稚園 027
しんえい子ども園 もくもく
 (株)16アーキテツク、社会福祉法人新栄会



概要
 1958年に開校し、2011年に廃校となった新宿区立西戸山第二学校を、認定子ども園と学童クラブへコンバージョンしました。用途変更により、スプリングラーの新設等が義務付けられた為、木をふんだんに使った園が可能となりました。木空間での保育は、自然に対する優しい心をはぐくみ、コミュニケーション力を育みます。自然に木と触れ合う環境を提供し、できるだけ多くの樹種の木を多様な仕上げで使うことで、木の手触り、香り、ぬくもりを日々体感でき、新しい発見を繰り返すことを意図しました。

評価ポイント 木育を実現するために、多様な樹種の多様な表情を見せる工夫が随所に見られ、親しみやすい空間になっている。中学校のコンバージョンという条件をクリアしつつ、木を使ったさまざまな仕掛けが楽しい。